

# 鳥取県青少年育成アドバイザー 協議会通信

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 68号

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会

発行日 2015. 9. 5

編集 芳村恵子

## 大会・開会あいさつ

四国ブロック会長 山本 邦彦

みなさん、こんにちは。ご紹介をいただきました、今年度ブロック会長を承りました、鳥取県の山本でございます。先般・6月末の全国和歌山大会で、全日本の会長にも選任されました。役割の重さをひしひしと感じているところでございます。

本日、ここに、公務ご多用の中、私達の為にご臨席をくださいました、愛媛県民環境部長石丸様。松山市教育委員会事務局長前田様、愛媛県青少年育成協議会会長武田様、私も古くから存じ上げております県議会議員森高様、誠に有難うございます。

常日頃から私たちの育成運動に深いご理解とご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

また、この研究集会開催にあたり、ご準備頂きました、愛媛県アドバイザーのみなさん。昨年の全日本アド連大会に引き続き、ご尽力を賜り、本当に有難うございました。

更に、ご参加くださいました、アドバイザーのみなさん、北海道から鹿児島まで、広い範囲から昨年に引き続き、この松山においていただき、本当にありがとうございます。

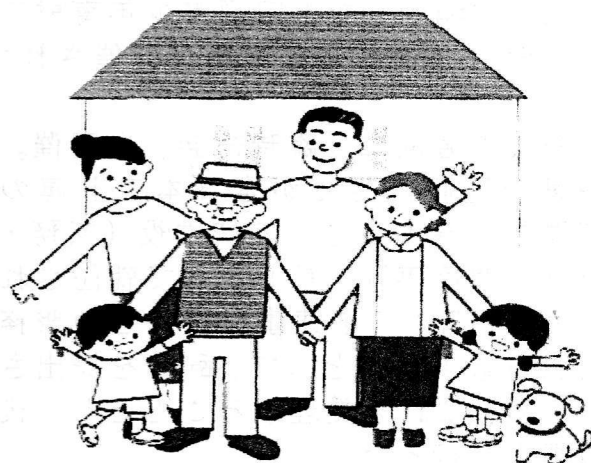
今回の研究集会は「語ろう・しゃべろう・これからの青少年」というテーマで、今日の青少年問題について、我々の日頃の運動を通して感じていることを、率直に披歴しあい、語り合って、これからの運動の活路を見出そうとするものであ

ります。

青少年問題は社会の鏡でありますから、その背景には今の大人の有り様が深く関わっています。その意味で青少年問題は現代社会が作り出した問題であり、子ども達はその犠牲者であると云えます。

子ども達を取り巻く我々大人がどのように、子ども達と関わり、どのようにに健やかな成長を支援することができるかが、今を生きる大人に問われています。

アドバイザーは、この事を自分の事として捉え、これからどうすべきかを語り合い、研修していかなければならないと考えます。



我らアドバイザーの生みの親である国民会議が解散を余儀なくされ、この為に国民運動も衰退しつつあり、我らの全日本アド連も大きな試練の時を迎えています。

このように国家的課題である青少年の育成運動も様々な課題を抱えておりますが、「青少年健全育成基本法」の制定と、これによって国民運動の再興を目指すこと。

また、我らの後継者をつくるアドバイザー養成講座の公的な復活など、早期解決を迫られる課題が山積しています。

このような時にこそ、アドバイザーが  
お互いの信頼と友愛の絆を強め、団結し  
て育成運動を進めなければなりません。

この松山大会で胸襟を開いて語り合  
い、懇親も深め、新しいパワーを充填し  
て、明日への活力につながる研究大会と  
なるよう、心から念じて開会のごあいさ  
つといたします。

よろしくおねがいします。・・合掌・・



### ～臨時役員会で、九州ブロック 研修会に参加することを決定～

#### ・松山大会参加報告・

～清水成真さん・中四国アド連事務局長  
に選任～

8月29～30日、の一泊二日で、道後  
温泉「古湧園」で中四国青少年育成アド  
バイザー連合会研究集会が開催された。

開会の直前に「臨時総会」を開催。愛  
媛県の近藤修さんが全日本アド連の事  
務局長 谷本治さんの補佐役（庶務・会  
計ほか関係事務全般）として就任された  
ため、中四国アド連事務局長との兼務は  
負担が重すぎるとして、辞表を提出され  
たため、これを受理することとし、後任  
の選出を行った。

規約では「会長が指名し、総会の承認  
をえる」と規定しており、私が清水成真  
さんを指名し、本人の内諾が得られたの  
で、この臨時総会を招集して承認を得よ  
うとするもの。満場一致で承認され、今  
後、私と共に、中四国アド連の運営に当  
たること決定した。ご多忙な成真さん  
であるが力を合わせて、育成運動に微力  
を尽くしたいと思っている。

今回の松山大会、昨年鳥取大会同様  
に「中国・四国、九州ブロック青少年育  
成アドバイザー研究集会」として、九州  
が準備を進めてきた、九州ブロック研修  
会が来年10月29・30日に、鹿児島  
で開催されることになり、閉会式の中  
で、鹿児島の帖地会長から参加の要請が  
行われることがわかった。

そのため、様々な意見が出ている為、  
臨時の役員会を開催し、中四国ブロック  
としての考え方を確認することにした。

私が挨拶を兼ねて臨時役員会開催の  
趣旨を説明し、谷本前中四国会長から経  
過を説明して頂いたのち、参加している  
各県会長（徳島は代理、岡山・島根は欠  
席）からひとりずつ意志を表明して頂  
いた。

参加することはよいことだが、中四国  
ブロック研修会そのものを九州で開催  
するのではなく、中四国は中四国ブロッ  
クとして毎年継続して開催することが  
適当である。九州とブロックが一つの組  
織になって、全ての会運営を行うこと  
では無いのだから、相互の交流研修は従  
来通りとしても、中四国は中四国とし  
ての研修会を開催するべきだ、との意  
見で統一された。

これにより、来年の中四国大会は広島  
県で開催するよう要請することが決定  
し、広島に持ち帰って検討いただくこと  
となった。

## 「中国・四国、九州

### 青少年育成アドバイザー連合会

#### 研究集会 松山大会」参加報告

清水 成真

8月29日～30日にかけて、道後温泉古涌園で開催された「中国・四国、九州青少年育成アドバイザー連合会研究集会 松山大会」に山本邦彦会長、西浦公子副会長、井上廉女副会長の4名で参加させていただきました。

研究テーマは「語ろう しゃべろう これからの青少年育成」ということで、九州も含め42名の参加者で開催されました。

パネルディスカッションでは、テーマ「地域で子どもや親の支援について」ということで、コーディネーターに藤目節夫（愛媛大学名誉教授、理学博士）を迎えて開催し、まずは、活動事例の発表。鳥取県では山本邦彦会長、香川県は大山扶美代氏、愛媛県は田中静江氏からそれぞれ、活動事例の発表をいただきました。

山本会長は、「育成運動の活性化を求めて」ということで「青少年育成三朝町民会議の活動」を紹介しながら現状と課題、また、新しい運動の取り組みについて発表。香川県の大山氏は、香川県多度津町白方地区の実践活動として、保育園・幼稚園学校と地域を結びつける活動を紹介されました。そして、愛媛の田中氏は子ども会活動を通してアドバイザーとしての活動を報告されました。

その後、「ワールドカフェ」という手法でグループに分かれて、「子ども達のためにどんな地域を創ればよいか。」という事について2時間程度、会話を致しました。

その後の交流会では、色々な出し物があり、楽しく交流し2次会も盛り上がりました。

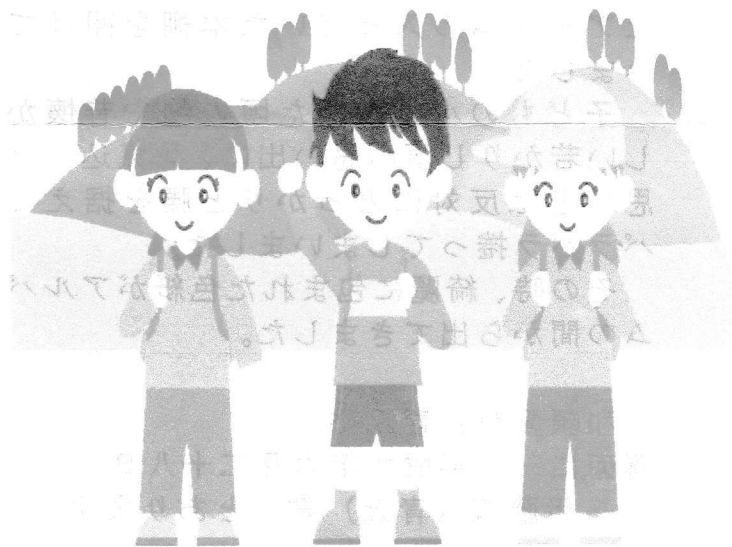
2日目は、講師に角田敏郎氏（前松山市青少年育成市民会議会長）をお迎えして、「青少年健全育成活動の実践からの提言」と題し講演をいただきました。特に「子ども教室」の実践発表を通して提言をいただきました。

閉会式では、九州ブロックの方から「来年10月29日(土)～30日(日)にかけて、九州ブロックの鹿児島県で、「研究集会」を開催するので、是非お越しください。」と、また「宿泊費は、こちらで負担いたします。」(えー)ということでした。

最後に、今回の愛媛大会の前に、臨時総会が開催され、予定通り??、「事務局長」にめでたく就任いたしました。

来年の5月21日(土) 広島市で総会と研修会が開催される予定です。皆さん今から予定表に入れておいてください。感謝。感謝。

「喜ばば、喜び事が、喜び連れて、喜びに来る。」和歌山での全国研究集会で、教えていただいた言葉です。



第三回友邦岸田会充電会記念

青丘書

# 和顔愛語



頂いたまま、仕舞い込んでしまっていました。

「和顔愛語」  
和やかで温和な顔つきや言葉つき。  
穏かで親しみやすい振る舞いのこと。

「和顔」は優しげな顔つきのこと。  
「愛語」は親愛の気持ちがこもった言葉。

じっと色紙を見ながら、伊藤先生の優しい笑顔が、微笑みかけてくださるようでした。  
早速花柄の化粧紙をバックにして、額に入れ、部屋に飾りました。

## 「和顔愛語」の教え

芳村 恵子

窓を開けて、気持ちの良い風が吹き込んでくる日、思い立って片付けに取り掛かってみました。しなければ、しなければと思いつつ、なかなか手の出せなかったアルバムの入っていた本棚を開けてみました。

子どもの小さかった頃の物や昔懐かしい若かりし頃の思い出に、意気込んだ思いとは反対にどっかりと腰を据えてパラパラ捲ってしまいました。

その時、綺麗に包まれた色紙がアルバムの間から出てきました。

「和顔愛語」青丘書

裏面に 平成九年六月二十八日

伊藤肇（青丘）書 とあります。

この頃、私はアドバイザーに認定されて間もない頃で、伊藤先生とは言葉を交わすことも余りなかったのではと思います。

片づけは、ほとんど進みませんでした。が、素敵な宝を探したようで、すがすがしい一日になりました。

嬉しくてお礼のお手紙をしたためました。

「和顔愛語」「和顔愛語」…  
この言葉を胸に、東郷池のそばを走り抜けて出勤しています。

## 編集後記

春よ来い、早く来いと言っていたあの日より、もう秋の風を感じる頃となりました。やっと68号の発行となりました。

今後も通信が、アドバイザーの未来に向けて皆様と共に歩む絆の一助になればと願っています。宜しく願いいたします。